

「あんた、何てことするの。親はどこにいるの、親を呼びなさい」。姫はけたたましく叫んだ。店員が現れ「姫様どうなさいました」と言つと、「この子が私の服を汚したの。弁償よ」と騒いだ。店員は『のら』に向かい険しい顔で、「あなた、お金はあるの」と尋ねた。『のら』は首を横に振った。店員は「親は来ているの」と『のら』に尋ねると、「親はいないの。『マナ』と一緒にきたの」とポツリと『のら』は答えた。姫は「捨て子なのね。だからそんな汚い格好しているのね。その『マナ』と言つ人はどこにいるの」と言つた。『のら』は「『マナ』はちょっと面白い物に行つているの」と言つと、姫が「嘘をついて、本当は一人で来たんでしょ。そんな汚い格好で、普通デパートに来るわけないわ。この素敵なデパートには、こんな汚い人は似合わないわ。摘み出さないわ。でないと、二度と私はここで買い物しないわよ」と命令した。お得意さんの姫が二度と来なくなつては困ると思ひ、店員は『のら』を摘み上げ、デパートの外に放り出した。『のら』はまたデパートの中に入るうとしたが、再び摘み上げられ、更に離れた場所まで連れて行かれ、投げ捨てられた。『のら』は再び『マナ』との約束のデパートに戻ろうとしたが、道に迷つてしまい、ついに戻れなくなつてしまった。

『のら』はくたくたになりながら、細い路地を歩いていた。その時一台の車が猛スピードで近づいてきた。『のら』は慌てて避けたが、その拍子に道の下にあるドブ川に落ちてしまった。車が止まり、中から煌びやかに着飾った姫が出てきた。「あなたが汚したので、新しい服を買いましたわ」と言つて、また車に乗り込んだ。

